

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491100071		
法人名	社会福祉法人明峰会		
事業所名	グループホームオハナ		
所在地	大分県宇佐市大字四日市4452-1		
自己評価作成日	令和6年11月14日	評価結果市町村受理日	令和7年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail%2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4491100071-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府巻番館 1F		
訪問調査日	令和6年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①ひびき山の高台に位置しており、四季折々の景色に恵まれ、日々自然を感じながら穏やかな生活が継続できる環境であります。そのため施設自体も木造平屋で、ホールには吹き抜けの窓の暖かな日差しを感じられる環境であります。

②訪問看護事業所と連携をとっており、健康管理や緊急時の対応、医療機関との連絡が敏速に図れております。

③学習療法の取り組みを実施、脳の活性化や認知症の進行緩和を目的とし、利用者とのコミュニケーションツールとしても活用しております。

④遠方の家族の方には、オンラインによるリモート面会も柔軟に対応しております。また、広報誌「オハナ日誌」も定期的に発行し、ご家族様へ配布も行っており、コロナ禍で逢えない時も、ご家族のご様子が分かるように対応しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「オハナ」は、開設13年目を迎えた施設です。理念「ふれあいと和を大切に〜。」にあるように認知症をもつ利用者と職員が家族のように支え合ってともに生きてゆくためにこの理念を掲げています。地域との関わりが減っていますが、清掃活動や灯籠祭に地域の一員として参加し協力しており、地域で行うアルツハイマーデーの印刷物配布活動を行い、地域貢献に繋がっています。昨年度より管理者・職員の交代があり、衛生・医療面(訪問看護)での連携、日々の記録や介護計画等の充実に向け、職員面談や話し合いの中で業務改善やケアの充実に取り組んでいます。その中で利用者の個別支援に力を入れており、学習療法・趣味(読書)の支援・清掃や食事の手伝い・洗濯物たたみ等できることの役割支援をケアの中に反映し、利用者が一日一日を出来ることに自信を持ち有意義に過ごす支援を行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念の額を掲げている。週に一度、朝礼時に唱和している。職員の名札の裏に理念を明記し意識付けしている。理念に沿う支援方法を提供している。	事業所理念「和・笑・輪」をもとに、利用者・職員は皆「家族」とし、思いに寄り添ったケアを行っています。週1回の理念を唱和する中で職員個々の意識と実践への振り返りを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により、地域の健康体操やオレヅカフェなどに出向くことは減ったが、地域の清掃デーには参加し出来る範囲を一緒に取り組んでいる。日々の散歩などを通じ、挨拶などで交流している。	コロナ禍の状況が続いており、地域の行事も減り、利用者の参加も少ない中で、お祭り(灯籠祭)の見学や近くの商店で買い物等利用者が出来ることを支援しています。地域の清掃活動には職員が協力し、認知症啓発活動の地域貢献も行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症研修やアルツハイマーデーのリーフレット配布活動への参加を行い、地域の人への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動状況の報告や事故の報告、意見要望等話し合い、サービス向上や対策等に努めている。	2ヶ月毎に対面での運営推進会議を開催しています。事業所の状況報告や毎回のテーマを考え、参加者との双方向な意見交換を行い、助言や支援を運営に活かしており、有意義な会議になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自己判断は避け、宇佐市介護保険課の担当者に質疑応答などやアドバイスを頂き、日頃から連絡を取り、良い関係が構築できるよう努力している。	市の担当者とは、運営推進会議で意見交換や直接出向いて相談・報告を行い、メールや電話・FAXでも情報交換を行っており、市との協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等で身体拘束適正化委員会を開催し事例等を取り上げ周知を図り、身体拘束を行わない対応をしている。	事業所の運営規定の中に、身体的拘束廃止及び虐待防止の事項があり、年2回以上職員会議で研修を行っています。特に虐待防止に関して利用者が抱える根本的な不安や混乱を取り除くことを考えケアを実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議にて高齢者虐待防止の勉強会や、委員会実施のアンケート調査に応じ結果を見直して、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症が発症しても、個人の思いやケアの方法など、利用者の思いに沿った支援方法や、判断力が不十分な利用者には後見人制度を提供できるよう勉強したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時も、重要事項を読み上げ説明を行い、分かりにくい文章などは例をあげ、理解しやすく説明を行う。また、疑問に対しても分かるように説明を行う。その他現状等の説明もしながら契約を進めていく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナなど、感染症の蔓延が心配な為、面会時や電話を通して要望や意見を御聞きし対応している。周知できるよう、申し送りも行っている。	利用者に日常生活の中で意見を聞き、家族は面会や電話連絡時に要望を聞いています。「オハナ日記」には利用者の日常を写真と職員のコメントを添え請求書とともに家族に送っています。	長引くコロナによる環境変化(面会規制等)は利用者・家族へのダメージが大きく、事業所としても面会場所の環境整備を行い、ゆっくり活かせる時間を作る工夫を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	直ぐに対応しなければいけない事項については迅速に対応を行うが、必ず月に1回、職員会議を行い、意見を出し合って情報を共有している。	管理者は日頃から職員が意見等を出しやすい雰囲気づくりに努め、職員会議や年2回の個人面談で提案を聞く機会を持っています。業務改善案や行事の計画書等個人の特技を活かせるよう配慮し、意欲の向上へ繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の水準や労働時間は、法の定める基準に従って実施している。また年2回、自己評価シートを用いて実施、個別に面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量を考慮し、その力量に応じ研修への参加や促しを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、来ていないが法人だけではなく、宇佐市役所からも同事業のネットワークを推奨されている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のインテーク等で、出来るだけ本人や家族、ケアマネに情報を聞き出し、利用が開始しても職員が対応できるように支援体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安な事や要望等については利用前の段階で明確にすることで、家族も安心でき良い関係作りが構築できると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの特性を説明する他、他の施設の特性も説明し、本人や家族が求めている対象の再確認を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけそのような生活を行って頂けるようプランに反映しているが、実際は異なる事も多い。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力的なご家族もおられれば、その反対の家族も多い。コロナの影響もあり、外出や外泊ができないため家族に求めている事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人内に馴染みの方が居られる方に関しては交流可能な場を設けている。感染症の影響で、外部の方との交流は控えている。	家族との面会や電話・手紙等での交流を支援しています。事業所から「オハナ日記」を送付し利用者・家族との関係継続に努めています。馴染みの美容院に行く方、行き付けの店で買い物をする方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性別や性格にもより、1人が好まれる方は個人の希望に沿って対応している。配膳や下膳など、出来る人は出来ない人の手伝いを行って頂けるよう取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切に必要に応じて連絡を取っている。その際にその後の様子を伺っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や生活の中で得た情報を職員同士で共有し、本人の思いや意向などを反映できるよう努めている。	日々の生活の中で、利用者と少しでも時間をとり、傾聴に努め思いや意向を把握し、介護計画に反映できるよう支援しています。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート、本人や家族へ聞き取りを行い、日々の会話や対応時に話題にするなどし、生活情報の把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員がホローしながら、できる事の把握に努めている。例えば掃除機の電源は職員が行うが、掃除する事は職員の見守りを行い、利用者へ実施して頂いている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で情報交換を行い本人の様子観察と共に対応策を検討し、よりよく暮らせるための計画を作成している。	利用者・家族の要望・主治医及び関係者の意見やカンファレンスでの職員の意見を反映させて介護計画を作成しています。モニタリングを3ヶ月毎に実施し、6ヶ月毎及び状況変化等必要時に現状に合った介護計画の見直しを行っています。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務中にその日の様子や体調等の気づきについて個別にiPadに入力し記録を残している。記録を確認し職員間で情報を共有しながら、状態に対して対応方法を会議等で検討し話し合いケアの統一を図っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急的な受診の対応など、家族では説明できない事など敏速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の食料品や必要な物品はなるべく地域の商店より購入し、地産地消に努めている。また、地元のお寺や商店街への外出に取り組み楽しめる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医が有るかをお聞きし、対応できる場所ならば受診介助を定期的に行っている。かかりつけ医が無い場合などは、いくつかの病院等医療機関を選んで頂けるような取り組みをおこなっている。	入所時に、かかりつけ医や病歴をお聞きし、家族の希望に沿って対応しており、月に一度の往診の協力医に変更する事もあります。職員同行で通院した時は、今の状況や薬の変更等を、家族へお知らせしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と連携をとり利用者の情報を共有し、早めに医療機関への連絡を行って対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーの作成、家族、主治医、医療連携室への連絡を行い、利用者の入退院がスムーズに行えるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に家族に説明を行っている。利用者が安心安楽に過ごせるよう、主治医や家族に施設での今後の方針支援の変更等を報告したり提案等も行い、支援に繋げている。	入所時に、重度化や終末期での方針を話し合い、事業所で出来る事と、出来ない事をお伝えして、家族の希望をお聞きし、看取り指針を作成しています。終末期に至った際は、看取りを病院で行うかどうかを、家族間で決めて頂いています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の緊急時対応マニュアルのファイルを作成している。誰でも直ぐ見れるようにファイルを事務所に設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災について、法人で実施している年2回の総合避難訓練に参加。地域に協力を依頼できる連絡網がある。自然災害時における事業所の業務継続計画(BCP)を作成し定期的な訓練も実施している。	火災等の災害時避難訓練は、年2回、法人と合同で、夜間及び昼間を想定した、総合避難訓練を行っています。災害時に、安全に避難出来るように、自力歩行可能な利用者も参加して、避難誘導訓練を行っています。	BCP作成にあたっての取り組みで、事業所の立地や、予想される災害の内、ライフラインが断たれた時の対応に、いち早く取り組む必要性を、強く認識している事で、関連施設との協力関係強化に期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導等、プライバシーに配慮し、個人に合った言葉かけで対応している。	利用者のプライバシーを損ねないよう、特にトイレ誘導の際や、失禁した利用者への声掛けには、職員も十分に気を付けて、尊厳を損なわないよう努めています。個人情報漏洩に対する研修を、全職員で継続的にを行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一緒に学習療法に取り組んだり、好みの歌をうたったり好きなテレビを見たりと希望に添えるよう傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴など、拒否が有る場合など、無理に声掛けせず、後日に回せるよう柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域より出張カットに訪問してもらって身だしなみを整えている。衣類等の使用の訴えに応じ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症もあり、調理を一緒に行う事は難しいが、後片付けやテーブル拭き、エプロン乾し等を手伝ってもらっている。	食事を楽しんで頂けるよう、利用者の希望をお聞きしながら、栄養士の献立で、三食全てを手作りしています。利用者には、テーブル拭き・下膳・洗い物も手伝って頂き、ホットケーキやおやつ作りに、参加して楽しんで頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事量や水分量をIPADに入力し記録を残しチェックしている。不足気味の方には声掛けし、好みの物に変えたり一部介助で支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に必ず口腔ケアを声掛けし一緒にやっている。必要な方にはサポートしている。使用した物品は定期的に除菌消毒を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員同士で利用者の排泄状況を共有し、声掛けてトイレ誘導を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握、失禁等があれば、小さい声でトイレ誘導をしています。自力排泄が可能な方には、いつでも行きたい時に、自由に行けるよう見守りによる支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の記録を確認し、情報を共有している。毎朝、朝食後にヨーグルトを提供したり、自然排便を促すように体操や腹部マッサージ、運動等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自由に入浴ができる事ではないが、声掛けを行いタイミングを計り対応している。また、拒否がある場合は、時間をずらしたり翌日に変えたりして対応している。冬至には湯船にゆずを浮かべたりしている。	入浴は、基本週2回以上、利用者の体調やタイミングを計り、入浴支援を行っています。浴槽に入れる方も多く、利用者がシャワー浴の時も、室温や温度管理に充分注意しながら、ヒートショック予防に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気分によっても変化があるが、職員は利用者ひとり一人の睡眠パターンを把握し共有して対応しており、昼夜逆転しないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個人ファイルに、内服薬の情報が挟んでおり、いつでも確認できるようにしている。また、服薬時の与薬担当者を決め、見守り等介助にあたっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	みんなの洗濯物をたたんだり、ゴミ箱作りを手伝ってもらったり、壁飾り作りを一緒に取り組んだりしている。みんなで歌をうたったり、体操をしたり、スポーツ観戦したり、誕生日会でケーキを食べたり、行事に参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で家族と食事に出出したり外泊は難しいが、感染予防をして、職員が付添い近所を散歩したり、車でドライブに出掛けたり、季節ごとの見学に出出したりしている。	感染に対する予防対策を継続しており、家族との外出時も自宅での食事を楽しみ、複数での集まりや、外食は控えて頂いております。車で近隣のドライブに行く等の、職員による外出支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響もあり、自分が欲しいものを買うに行く機会は無くなってきたが、施設の備品など、利用者と一緒に買いに行ったりし、金銭に対しての理解を忘れない支援を実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らの通信は行えていないが、家族からの電話やオンラインによるリモートには対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日定時に清掃を行い、清潔な日常保持に努めている。手作りの日めくりカレンダーや壁飾りや花などで季節を感じてもらったり、好みの音楽を流したり、換気や室温調整で居心地よく刺激がない様に環境に配慮している。	テーブル・手すり・トイレ等の消毒をしており、フロアは水拭きとモップによる清掃を徹底し、居心地の良い共用スペース作りに努めています。転倒リスクの多い方が、安心して自力歩行ができるよう、椅子や机の配置も工夫して設置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット間の行き来は自由にして頂いている。畳の間では横になったり、一人でソファでくつろぎ静かに過ごせたり、通路で日向ぼっこや景色を眺められるように椅子を並べて置いている。居室にも自由に行ける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のタンスの上に家族との写真や表彰状などを飾っている。使い慣れた枕や毛布など使用している。本人のこだわりの物があれば可能な限り対応することを心掛けている。	入所時に、利用者の好みの仏壇・写真・テレビや今まで家で使用していた電動ベッドも持参して頂き、施設の備え付けのタンスと収納家具と共に、自由に使用して頂いています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなど導線には手すりを付け、安全に移動できる工夫をしている。また、居室の照明器具に紐をつけて自分で引っ張り操作するような簡単な動作ができるよう工夫している。		